

NATORI・MASHIKI×KOBE

VOLUNTEER REPORT 2017

5.13-9.23



宮城県名取市



熊本県益城町



兵庫県神戸市



平成 29 年度

東日本大震災・熊本地震災害復興支援
学生ボランティア事業報告書

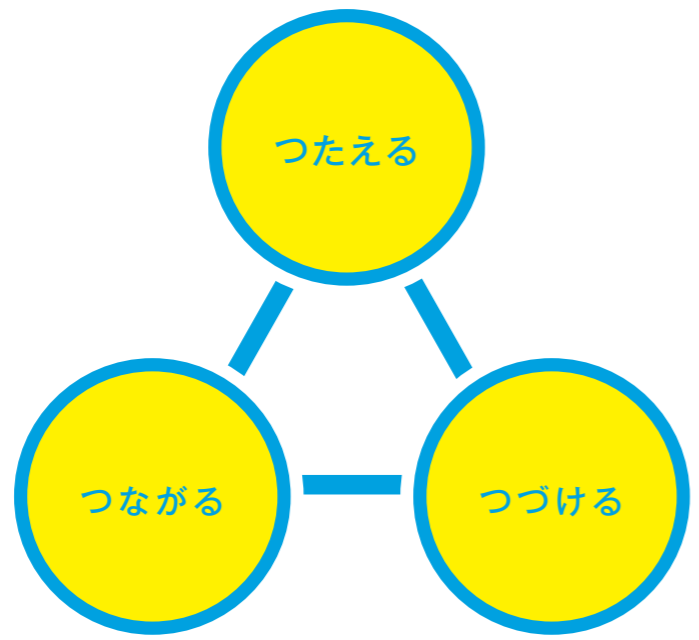
ひょうごボランティアプラザ・神戸市社会福祉協議会・大学コンソーシアムひょうご神戸

3つの“つ”

つたえる … 震災の経験と教訓を、現地の現状を。

つながる … 現地の住民、学生と。

つづける … 現地での活動をこれからも。



私たちのボランティア活動は、今年で7年目となりました。
活動当初から掲げてきた活動のコンセプト。

つたえる・つながる・つづける「3つの“つ”」

尚綱学院大学の学生ボランティアとの
活動を通じて受け継がれてきました。
これからも、このボランティアに参加する学生たちによって、
いつまでも受け継がれていきます。



NATORI・MASHIKI×KOBE VOLUNTEER REPORT 2017 5.13-9.23

CONTENTS

INTRODUCTION (ごあいさつ)	02
活動の概要	04
神戸での体験プログラム	06
宮城県名取市での活動	08
熊本県益城町での活動	10
スタッフ・お世話になった 方々からのコメント	12
東日本大震災・熊本地震災害復興支援 学生ボランティア事業参加者	14



INTRODUCTION

災害ボランティア、そして新しいまちづくり・社会づくりへ

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会
ひょうごボランティアプラザ
所長代理



鬼本 英太郎

このプログラムの参加学生は、被災地・被災者の現状と課題や児童に対する心理ケアなどの事前学習や高齢者施設・児童館での実習を経て、現地ヒアリングを踏まえ実施プログラムを企画し、被災地に赴き交流・支援ボランティア活動を行いました。まずもって、5月から5か月にわたる皆さんの取組に敬意を表します。

振り返りの会では、「東日本大震災から6年、もっと復興が進んでいると思った。嵩上げが完了せず、やっと復興住宅が建ち始めたところに驚いた。東日本大震災は直接関係ないと思っていた自分が嫌になった。災害から生き抜くためには、自ら備える、自分の命は自分で守ることが必要だ。」という思いも聞きました。

災害ボランティアは、駆け付ける者に支え合う喜びをはじめ様々な体験や知見をもたらします。学生たちは被災地で引き続きの支援とともに、大災害への自らの備え、災害に限らず日常のボランティアを通じ、身近な課題に取り組むことの大切さを知りました。

今被災地では、過去の災害の取組を参考に、その地域なりのまちづくり、新たな社会づくりが進んでいます。こうしたまちづくりは、一つの復興が次の災害の復興につながり、その連鎖で成り立っています。その礎となったのが22年前の阪神・淡路大震災です。大学生の多くは震災以降に生まれ、その震災を知らない世代となりました。若い皆さんが高齢化や過疎に直面する被災地の復興に参画することは、自らの地域で災害をはじめ地域の課題に市民が力を発揮する層の厚い市民協働の仕組みづくりにもつながります。「自分たちで社会課題を解決するしくみをつくる」という意味では、今後の職業生活にも生かされるものです。こうした意味でも、このプログラムは22年前の経験と教訓を「災害文化」として引き継ぐひょうご神戸の取組として大切なことと思います。

最後になりますが、学生たちを送り出していただいた大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学はじめ関係者の皆さん、現地で迎えていただいた被災地の皆さんに厚くお礼を申し上げますとともに、ボランティアプラザがこのプログラムに参加する機会を得たことに感謝する次第です。

いつの日か再び

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
地域支援部 部長



福井 徹

平成29年度の学生ボランティア事業は、大学コンソーシアムひょうご神戸、ひょうごボランティアプラザそして本会という、平成28年度に続く3者共催の事業として開催いたしました。事業の実施にあたっては、事業費助成をいただくなど様々なご支援ご協力をいただいた機関・団体様、そしてなにより、我々を受け入れてくださった宮城県名取市・熊本県益城町そして神戸で被災された方々、また地域活動団体のみなさまに大変お世話になり、心より感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

さて、この事業の表題となる「ボランティア」活動とは、一般的に手助けを求める人や団体に対しボランティアさんが自発的かつ無償で支援を行うというものです。しかし多くの場合、手助けを求める側も支援する側も、同じ社会に共存する者としての「お互いさま」という意識のもとで行われていることが多く、特にボランティアが子どもや若年者、初心者の場合はむしろ、自身にとっての大きな学びの場としての意味も大きいと言われています。

今年の学生ボランティア事業においても、学生のみなさんは活動を通じてたくさんものを学び、成長した姿を見せてくれました。これらは、生涯失われることのないその人自身の人間としての財産・能力として「身につく」ものであり、実際、多くの学生が振り返り会や自身の寄稿文の中でそのことに触れています。

私ども社会福祉協議会は、人の痛みを我が事として受け止め、地域全体で支えあう社会づくりを使命としています。

この数か月間、みなさんが費やされた時間や労力、傾けられた情熱や葛藤、すべての活動を通じて身につけられた学びと成長は、おそらく単に「学生自体の思い出」には留まらないことでしょう。今回、たいへんなエネルギーをかけて身につけられた人間としての成長を、自身と身近な人の幸せのため、そして誰もが安心して暮らし続けられる社会づくりのために、いつの日か再び活かしてくださることを切に願います。

ひょうごの学生が活動すること

大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会 委員長代理
神戸親和女子大学 学長補佐
地域交流センター長



大島 剛

阪神・淡路大震災から22年、東日本大震災から6年、1年前の4月に熊本で震災がありました。人はそれぞれの震災に多かれ少なかれ影響を受け、それが何らかの活動の源になっていきます。昨年8月このコンソーシアムの事業で宮城県名取市に夏休み登録学生ボランティアバスで学生を派遣して早1年が経ちます。振り返ってこの1年間はひょうごボランティアプラザ、神戸市社会福祉協議会の方々の力を借りながら、先の1年よりも濃いものになったように思います。

今年の2月に復興庁との連携で「全国学生ボランティア交流フォーラムIN神戸」を開催しました。宮城県、熊本県を中心とした大学生を神戸に招聘したのですが、ホスト役は昨年東北に行った学生でした。そして3月には「2017春休み学生ボランティアバス」として熊本県益城町に支援に行きました。このボランティア学生の中にも、昨年の東北、そして2月の交流フォーラムに参加した学生が含まれています。

今年は5月から研修をスタートし、神戸でのフィールドワークを体験した後、学生が東北チームと熊本チームに分かれて活動する厚みのあるプログラムとなりました。この中でこれまでのプログラムに参加した学生が10名、学生リーダーとして支えてくれました。つまり、このプログラムは被災地に支援に行きたい学生が思い思いに現地でボランティア活動をするものではなく、「伝える×繋がる×続ける」の言葉を今まで以上に具現化したプログラムになってきたと感じます。ただ青春の1ページの思い出としてではなく、参加した学生が今後もチームワークを重んじ、何事にも一歩踏み出た行動を取れる人間として着実に成長するための機会であったと信じています。

被災地のリレー、被災地仲間としての絆を通して、震災への支援が若者を大いに成長させるのだと思います。この11月には「震災食堂」という新しい試みも生まれました。22年前に大震災を経験したこの地でこれからも学生が活動しながら成長していくことを祈ります。来年の活動にも多くの学生が手を挙げて参加してくれることを期待しています。

最後になりましたが、親身になってこの活動を支えていただいた地元の皆様、関係機関の皆様にご挨拶申し上げます。

繋がる思い

学生スタッフ代表
神戸学院大学 3年生



井上 和輝

7年目を迎えた今年の活動は、宮城県名取市に加え熊本県益城町にも伺うことができました。今年も多くの参加希望者を募ることができ、まだまだ復興に関わりたい学生がいることをとても嬉しく思います。

さて、今年の活動は訪問場所が増えたこともあってか、例年とは違うまた新たな取り組みがスタートしました。「自発性を持ち、社会的ニーズに対して活動する」、この目標に伴い、例年の学生リーダーではなく、新たに学生スタッフという立場を作ることで、学生スタッフを中心に学生間の交流や、各チームのサポート、大人スタッフの皆さんの役割にも携わり学生らが主体となって自発的に行動することができました。

全体の活動を振り返ると、今年は特に名取・益城、共に今までの活動がとても活きており、コンセプトの中にある「繋がる」を強く実感することが出来ました。今年3月に熊本に伺っていたメンバーは、もう一度住民の方と再会することが出来たり、名取では2月に行われた「全国学生ボランティア交流フォーラムIN神戸」をきっかけに他大学との交流を続け、震災について改めて勉強することが出来ました。

皆さんに、この報告者を読んで少しでも私たちの思い、住民の方たちの思いを知ってもらえれば幸いです。

活動の概要

■プログラム名

平成29年度 東日本大震災・熊本地震災害復興支援学生ボランティア事業

ボランティアの趣旨

近年注目を集めている災害支援を活動テーマに位置付けつつ、「自発性をもち、社会的ニーズに対して活動する」というボランティアの原点に立ち、自ら課題を見つけ協働していくことを通じて学生たちの成長を促す。

共催

ひょうごボランティアプラザ
神戸市社会福祉協議会
大学コンソーシアムひょうご神戸

協力

復興庁 尚綱学院大学 東北学院大学 熊本県立大学 熊本学園大学

実施日

平成29年5月13日(土)～9月23日(土)

現地活動日程

名取 8月25日(金)～8月28日(月) 3泊4日
益城 9月8日(金)～9月11日(月) 3泊4日(車中2泊)

参加人数

一般学生 32人 学生スタッフ 10人 計42人

■活動プログラム

第1回 オリエンテーション&第1回研修会

日時：5月13日(土) 14時00分～17時30分
場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室
・オリエンテーション

- ①今回のボランティアプログラムの趣旨・スケジュールについて
甲南大学 地域連携センター事務局 課長 松下 賢一
- ②スタッフ紹介
学生スタッフ 神戸常盤大学 4年 清水 凜風



- ・研修：①アイスブレイク
②東日本大震災、熊本災害の被災地と被災者支援
ア 熊本地震被災地の状況(熊本県益城町)
講師：熊本県立大学4年生 岩崎 貴夏矢 氏
イ 東日本大震災被災地の状況(宮城県名取市)
講師：閉上地区まちづくり協議会代表理事 針生 勉氏
- ③被災地支援・災害ボランティアとは
ひょうごボランティアプラザ 所長代理 鬼本 英太郎
- ④質疑応答
コーディネータ：神戸大学 ボランティアコーディネーター 東末 真紀
- ・チームビルディング
チーム発表、リーダー・役割決め、現地ヒアリングメンバー選定
甲南大学 教授 久保 はるか

第2回 第2回研修会

日時：5月27日(土) 14時00分～17時00分
場所：神戸市民福祉交流センター 301教室

- ・研修：①ボランティア論
神戸市社会福祉協議会 主事 藤崎 圭多朗
 - ②被災者の心理に寄り添う
神戸親和女子大学 教授 大島 剛
 - ③まとめ及び現地ヒアリングを含む今後の活動に向けて
神戸女子大学 教授 大西 雅裕
- ※上記2つのレクチャーを聞き自チームの企画を考える。
研修後：現地ヒアリングメンバーミーティング

現地ヒアリング

- ・目的：活動先となる地域の関係者や支援者に話を伺うことで、いま現地で何が必要とされているかを聞き出し、活動企画の基礎材料とする。

- ・熊本県益城町 日時：6月3日(土)～4日(日)
訪問先：テクノ仮設団地、飯野小仮設団地、小池島田仮設団地、櫛島仮設団地、赤井仮設団地、熊本城、熊本学園大学交流会
- ・宮城県名取市 日時：6月9日(金)～11日(日)
訪問先：名取が丘児童センター、増田児童センター、愛島東部仮設住宅、美田園第一仮設住宅、美田園北復興公営住宅、尚綱学院大学、復興庁宮城復興局、ゆりあげ港朝市



第3回 ヒアリング報告会&第3回研修会&チームミーティング

日時：6月17日(土) 13時00分～17時00分
場所：神戸市民福祉交流センター 301教室

- ・ヒアリング報告会
ヒアリングに参加した代表者が、各訪問先から伺った話を他のメンバーに伝達する。
- ・今後の活動について
甲南大学 地域連携センター事務局 課長 松下 賢一
- ・チームミーティング：各チームに分かれ、活動企画を検討する。
- ・学生スタッフミーティング報告
- ・研修：演習「傾聴の基礎、スキルを学ぶ」
神戸女子大学 教授 植戸 貴子

神戸での体験プログラム

目的：高齢者施設や児童館などでボランティア活動のプレ体験をする。地元地域でのボランティア活動を体験する。子どもや高齢者と交流し、接し方を学ぶ。複数の受入先を調整し、チーム単位で活動先を決める。

日時：6月29日(木)～7月29日(土)

- 場所：・ぼっぼくらぶ(神戸市東灘区)
6月29日(木)、7月6日(木)
- ・浜御影児童館(神戸市東灘区)
7月1日(土)、7月29日(土)
- ・喫茶カーナ(神戸市須磨区)
7月2日(日)
- ・細田児童館(神戸市長田区)
7月8日(土)、15日(土)

第4回 チームミーティング&研修会

日時：8月4日(金) 13時00分～17時00分
場所：甲南大学 岡本キャンパス
グローバルゾーンポルト(2号館1階)

- ①復興庁からの基調講演
「東日本大震災の体験と復興庁の取り組みについて」
講師：復興庁 ボランティア・公益的民間連携班/
男女共同参画班 佐々木 葵氏
- ②企画プレゼン
各チームが企画をプレゼンし、スタッフからの企画に対するアドバイスを頂く。



- ③チームミーティング
スタッフからのアドバイスを基に、企画の立案、変更を行う。

名取最終ミーティング

日時：8月22日(火) 15時00分～17時00分
場所：甲南大学 岡本キャンパス 第2会議室(3号館7階)
内容：活動に向けての諸準備の最終確認
参加者：のびた、などりまる、同行共催スタッフ

益城最終ミーティング

日時：8月22日(火) 16時00分～18時00分
場所：神戸市福祉交流センター ボランティアルームB
内容：活動に向けての諸準備の最終確認
参加者：えだまめず、からあげくん、くまもんず、ひよごもん、同行共催スタッフ

活動本番

- ・宮城県名取市
日時：8月25日(金)～8月28日(月) 3泊4日
活動先：名取市内各所、仮設住宅(愛島東部、美田園第一)、復興公営住宅(美田園北)、児童センター(増田、名取が丘)
宿泊：東北学院大学 旅館ボラステ(学生)
- ・熊本県益城町
日時：9月8日(金)～9月11日(月) 3泊4日
(うち車中2泊)
活動先：仮設住宅(飯野小、赤井、小池島田、櫛島、テクノ)
宿泊：元気の森かじか

第5回 振り返り会

日時：9月23日(土) 14時00分～17時00分
場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室

- ①開会挨拶
甲南大学 地域連携センター事務局 課長 松下 賢一
- ②各チームによる活動振り返り・報告
- ③学生スタッフからの報告・スライドショー
- ④今後の意気込みを語る(学生1人1分程度)
- ⑤スタッフ講評 活動報告・学生の意気込みを聞いて
- ⑥まとめ(総括)
神戸親和女子大学 教授 大島 剛
- ⑦閉会挨拶
ひょうごボランティアプラザ 所長代理 鬼本 英太郎

以上

神戸での体験プログラム

ぽっぽくらぶ (神戸市東灘区)

日時：6月29日(木)、7月6日(木)

内容：茶話会
喫茶運営のお手伝い

人数：各日5人

感想

お茶をしながら阪神・淡路大震災当時のお話を聞いたり、地元・神戸について、知らなかったことをたくさん教えていただくことができました。この場に集うみなさんはとても仲が良く、元気で笑顔が飛び交うほっとする空間でした。みなさんとても温かく迎えてくださり、楽しむことができました。ボランティアに参加するのは初めてのメンバーばかりでしたが、別れの時には「またきてね、ありがとう。いつでもきてね」と温かい言葉をかけてくださり、みなさんに会えて本当に良かったです。



浜御影児童館 (神戸市東灘区)

日時：7月1日(土)、7月29日(土)

内容：公園でシャボン玉、鬼ごっこなど
夏祭りのお手伝い

人数：各日7~8人

感想

この児童館には、幼児から小学校6年生までが来館していました。幅広い年齢層の子どもと積極的にコミュニケーションを取り、傾聴のスキルについて学んだことを実践するよい機会でした。本番の企画までに、各々が他世代と関わる自信に繋がる活動となりました。



喫茶カーナ (神戸市須磨区)

日時：7月2日(日)

内容：茶話会
喫茶運営のお手伝い

人数：7人

感想

七夕の季節ということで、参加者のみなさんと笹作りとお茶会をして楽しく交流することができました。交流の中では、震災当時の話や、参加したきっかけなどを聞くことができ、改めて震災の恐ろしさや、綺麗になった街並みには、たくさんの思い出やそれぞれの方々の歴史があるということを感じさせられました。

そして喫茶カーナが参加者のみなさんの居場所であり、日々の暮らしの生きがいであるということを知ることができました。



細田児童館 (神戸市長田区)

日時：7月8日(土)、7月15日(土)

内容：ドッチボール、おままごと
鬼ごっこ

人数：各日7~9人

感想

細田児童館の子どもたちは、とてもパワフルで元気いっぱいでした。それでも積極的に話しかけてくる子もいれば、私たちから話しかけても恥ずかしがって逃げてしまう子もいるなど、子どもたち一人ひとりへの接し方を考えさせられる場面がありました。子どもたちとふれあい、一緒に遊ぶ楽しさと難しさの両面を経験することができた、とても有意義な活動となりました。



宮城県名取市での活動

学生研修・交流会

日 時：8月25日（金） 10時00分～17時00分
場 所：尚綱学院大学 ゆりが丘キャンパス 多目的ホール
参加学生： 大学コンソーシアムひょうご神戸 13人
尚綱学院大学 20人
東北大学 2人
計 35人

活動詳細

宮城の復旧・復興の現状と課題について復興庁の米田様、関上地区まちづくり協議会の宇佐美様の講話を聞き、東北大学・尚綱学院大学の学生と共に『東日本大震災の現地活動で学んだ事』『自分たちがこれからできること、したいこと』についてグループでディスカッションを行いました。

感 想

私は阪神・淡路大震災が起こった後に生まれ、震災の経験がありません。実際に被害に遭われた方の講話を聞き、改めて地震の怖さを感じ、学ぶことができました。南海トラフは30年以内に起こると言われていますが、いつ地震が起こっても対応できるように避難道具を準備し、この講話での学びを周囲を初めとするいろんな方にお伝えしていきたいと思います。

なとりまる チーム

美田園北復興公営住宅

日 時：8月26日（土） 10時00分～16時00分
人 数：兵庫の学生7人+尚綱学院大学の学生2人 計9人
趣 旨：住民の方とコミュニケーションをとり、交流を深める。
活動詳細
[午前] 学生だけで、復興公営住宅の周りの掃除（草むしり）。
[午後] 住民の方にスイカを割ってもらって、学生と一緒にスイカを食べる。
住民の方、学生に残る思い出の一つとして、全員で写真を撮り学生と一緒にフォトフレーム作り。
住民の方と学生の混合のグループを作り、スゴロクトーキングを通してコミュニケーションをとる。

成果と課題

スイカ割りは思っていた以上に盛り上がり、なによりフォトフレーム作りをとても喜んでいただけて、計画通りスムーズに活動をする事ができました。ただ、メンバーの居場所や動向を把握しきれず、次の企画の準備に影響してしまった為、逐一連絡を取り合うことが私たちの課題となりました。

感 想

私たちが思っていた以上に多くの住民の方が参加して下さったお陰でとても盛り上がり、短い時間でしたが最後まで楽しい時間を過ごす事ができました。とても充実していて終始笑いの絶えない1日となりました。また、笑顔と元気を与えたいの思いを持ち活動に取り組みましたが、逆に笑顔と元気をいただきました。

愛島東部仮設住宅

日 時：8月27日（日） 10時00分～16時00分
人 数：兵庫の学生13人+尚綱学院大学の学生4人 計17人
趣 旨：仮設での生活に思い出を
活動詳細
[午前] テント設営や住人の方々へ呼び込み。草むしり。たこ焼きの材料の買い出し・下ごしらえ。
[午後] たこ焼き・お菓子を食べながら茶話会。
子どもの遊び相手をする。
愛島ダンサーズの方々の踊りを拝見する。

成果と課題

大人数での作業だったため、分担やお互いの気遣いが上手くでき、主婦の方々や子どもたちと交流を図ることができました。ただ、細かい準備物の不足、参加者にかたよりがあったため、事態の予測や、呼び込み方の工夫が必要だと思いました。

感 想

予想以上に多くの住民の方が来て下さり、子どもも大人も含めて、交流を深めることができました。計画していた内容を変更することが多々ありましたが、全員で臨機応変に対応できました。愛島ダンサーズの方々がサプライズで踊りを披露して下さい、子どもたちがバスを追いかけてまで見送ってくれたことが、とても嬉しかったです。



名取が丘児童センター

日 時：8月28日（日） 10時00分～16時00分
人 数：兵庫の学生7人+仙台大学の学生1人 計8人
趣 旨：子どもたち同士で仲良くなってもらおう。
活動詳細
[午前] 現地視察、準備、職員の方々との打ち合わせ。
[午後] 子どもたちと一緒に昼食。
全体でゲーム。
おくずがけ・たこせんを食べる。
屋外でのケイドロ、屋内でのミッション007(頭と体を使うゲームラリー)に分かれて遊ぶ。

成果と課題

企画の流れの確認や準備を丁寧にしたつもりが、子どもたちに内容を伝えるのに苦戦したり、集中を切らせてしまったりして、進捗が円滑に進まないことが多かったです。しかし、遊びの要望への対応や、たこせんなどでたくさん喜んでもらうことができました。企画内容や時間配分に、子どもに対する配慮をもう少し高めればよかったです。

感 想

大人とは違い、自分の感情を率直に表現する子どもたちに、振り回されることも多くありました。しかし、素直な彼らから元気や笑顔をもらい、気付かされることもありました。視野を広げて、周りの子どもたちに注意や気遣いをするのは大変でしたが、怪我や喧嘩もなく終了できたのは、メンバーとの協力が上手くできたからではないかと思いました。

のびた チーム

美田園第一仮設住宅

日 時：8月26日（土） 10時00分～16時00分
人 数：兵庫の学生6人+尚綱学院大学の学生2人 計8人
趣 旨：住民の方とコミュニケーションをはかり、住民の方の思いに残る活動を行う。

活動詳細

牛乳パックで流し台を作り、セレモニーとしてそうめんを流す。小分けされたそうめんを食べた後、茶話会を行う。
急遽、体操・カラオケ大会も行った。

成果と課題

食中毒が懸念されたため流しそうめんはセレモニー化されましたが、予想以上に盛り上がりました。しかし、そうめんの準備に気が取られてしまい、住民の方へ十分に気を配ることができませんでした。

感 想

優しい方ばかりで準備段階からたくさんお手伝いをして下さり、その中で、いろいろなお話をすることができました。その時に1人の住民の方から「そばにいてくれるだけでいいの」というお言葉をいただきました。その言葉で今まで活動を行ってきた意味が実感できました。

愛島東部仮設住宅

日 時：8月27日（日） 10時00分～16時00分
人 数：兵庫の学生13人+尚綱学院大学の学生4人 計17人
趣 旨：仮設での楽しい思い出を残してもらおう。
活動詳細
[午前] 草むしり、たこ焼きの準備、呼び込み
[午後] たこ焼きの調理・食事、茶話会、愛島ダンサーズの方による踊り

成果・課題

住民の方とのコミュニケーションを重視した活動を行うことができました。しかし、住民の方だけで集まって会話していた場面があり、タイミングが掴めず上手く会話に入ることができなかったこともありました。

感 想

草むしりでは住民の方が話しかけて下さり、「頑張っね」と優しい言葉をいただいたのでとても温かい気持ちになりました。たこ焼きでは、タコしか入れたことないとおっしゃっていて、「いろんなものを入れると面白いし、美味しいから次にしてみよう」と言ってくださるなど喜んでもらえて良かったです。

増田児童センター

日 時：8月28日（月） 10時00分～16時00分
人 数：兵庫の学生6人+尚綱学院大学の学生4人 計10人
趣 旨：普段できない遊びを通して、子どもたちと楽しい時間を過ごす。
活動詳細
○×ゲーム・なぞなぞ・紙飛行機作り・間違い探しなどのクイズラリー。クリアした子どもに景品としてお菓子を配布。

成果・課題

クイズが好きな子どもたちが多かったので、楽しんでくれたようでした。しかし準備不足や、小学生のことを十分に理解できておらず、クイズが難解であった問題がありました。

感 想

試行錯誤して準備したつもりでしたが、一番準備不足が目立つ日でした。しかし臨機応変に対応できたことで、子どもたちが楽しく過ごすことはできたようでした。今回のことで、わかっているという思い込みは捨て、多くの情報を収集してあらゆる状況を想定し計画を立てるべきだと実感しました。



熊本県益城町での活動

テクノ仮設団地

日時：9月9日（土） 10時00分～16時00分

えだまめず チーム

人数：兵庫の学生7人＋熊本県立大学の学生3人 計10人
趣旨：子どもたちに体を動かしてもらい、目一杯楽しく遊んでもらう。また、この活動を通して住民の方同士の交流を深めてもらう。

活動詳細

[午前] ボールやラケットなどの道具を使った遊び。
[午後] 水鬼ごっこ。水鉄砲や水風船を使った水遊び。

成果と課題

ひとりで遊んでいる子どもがおらず、学生それぞれが多くの子どもと関わることができました。また、活動を通して、子どもたち同士の輪を広げることができたと感じます。
呼び込みを行った際の重複、時間配分のミスなど、細かいことでのチーム内の情報共有、確認が大事であると感じました。

感想

呼び込みの時には家にいない住民の方が多く、最初の方は集まりがあまりよくありませんでしたが、午前中に楽しく活動できたことで、午後はより多くの子どもたちが来てくれました。また、子どもたち同士が学年を超えて一緒に遊んでいて、縦のつながりを感じる事ができました。

ひよごもん チーム

人数：兵庫の学生7人＋熊本県立大学の学生3人 計10人
趣旨：大勢の人と遊ぶことの楽しさを共有し、団結力をつくる。遊ぶことでストレス発散、子どもらしさを出せる場にする。

活動詳細

[午前] 仮設住宅内を回って活動の呼びこみ。
[午後] 水鬼ごっこ。水風船や水鉄砲などを使った水遊び。

成果と課題

午前中の呼びこみのおかげで、午後はたくさん子どもたちが集まってくれました。ただ、「誰のためのボランティアか」という意識が欠けた部分があり、そこが課題となりました。

感想

仮設住宅の子どもたちは普段広場を使って遊ぶ機会が少ないということで、今回広場で思いっきり遊べる環境と時間を作ることができ、子どもたちが笑顔で楽しそうに遊んでくれたのでよかったです。

からあげくん チーム

人数：兵庫の学生7人＋熊本県立大学の学生1人 計8人
趣旨：住民の方々とコミュニケーションをはかり、神戸の学生との交流を深める。

活動詳細

[午前] ロウソクやクレヨンを使ったアロマキャンドル作り。
[午後] トランプや花札で遊びながら茶話会。

成果と課題

成果：事前にチラシを作った結果、幅広い世代の方々が来てくださったことで、笑いの絶えない温かい空間を作ることができました。

課題：視野が狭かったため柔軟に対応できておらず、誰のためのボランティアかを考えることができていませんでした。

感想

活動一日目だったのでたいへん緊張していましたが、住民の方が温かく迎え入れてくださったので、お互い笑顔が絶えない活動でした。一日目が出た反省点を次の日の小池島田仮設での活動に活かすために、たくさん話し合い意見を交換したことも、とても良い思い出となりました。

くまもんず チーム

人数：兵庫の学生8人
趣旨：風船オーナメントや茶話会を通して住民の方とコミュニケーションを図る。楽しい時間を共に過ごす。

活動詳細

[午前] 風船オーナメントという風船を使った工作作り。簡単に材料も集めやすく家でもできる工作。完成品がうまくいくようにボンドを多く利用し工夫した。
[午後] 午前の続きの風船オーナメントと茶話会。茶話会では温かい飲み物と冷たい飲み物を用意し花札やトランプなどのカードゲームをしながら交流を深めた。

成果と課題

風船オーナメントは簡単に材料があればどこでもできるのでまた家で作りたいと言ってくださる人がたくさんいて喜んでくれました。幅広い年齢の方々と交流ができ、コミュニケーションを取ることができました。

風船オーナメントでは子どもには少し難しい工作だったと感じました。大人の手伝いがなくてできなかったのも子ども向けの工作を用意するべきでした。茶話会では、住民の方が帰られてから学生同士で話をしたりしてしまう時があったので住民の方へ呼びかけに行くべきでした。

感想

幅広い年齢の方々が足を運んでくださったので、住民の方ととても貴重な時間を過ごせました。風船オーナメントは作り方が簡単でまた作りたいという声が多く、とても喜んでくださったので私たち自身も嬉しかったです。茶話会では震災当時の貴重なお話をしてくださった方がいて、実際に震災にあった人の話を聞くのは初めてだったので貴重な経験ができました。みなさんが帰られる時『ありがとう』『楽しかった』という声をいただきすごく嬉しかったです。またここにきてみなさんと楽しい時間を過ごしたいと思いました。



櫛島仮設団地

えだまめず チーム

日時：9月10日（日） 10時00分～16時00分

人数：兵庫の学生7人

趣旨：住民同士のコミュニケーションの充実、イベント後の「つながり」を継続してもらう。

活動詳細

[午前] お茶会と手のマッサージ。
[午後] 花植えとお茶会。

成果と課題

2日目の櫛島での活動では、1日目の反省を活かして、チーム内の情報共有をきちんと行い、片付けとお茶会をチーム内で分担して時間を有効に使うことができました。また、手作りの水やり用のカレンダーによって「つながり」の機会を提供しました。
想定外の事が起こった時に会長や住民の方に頼り過ぎてしまい、臨機応変さが大事だと感じました。

感想

櫛島の住民の方は、みんな明るく前向きな言葉を口にしていて、私達も元気を頂きました。また、会長のアイデアによって竹でプランターを手作りし、見た目も可愛く、素敵なプランターを作ることができました。最後に私達がバスに乗り込んでからも、手を振ってお見送りをしてくださり、ふるさとを離れるようで寂しい気持ちになりました。

赤井仮設団地

ひよごもんず チーム

日時：9月10日（日） 10時00分～16時00分

人数：兵庫の学生8人

趣旨：挨拶回り、呼び込みをすることでイベント参加のきっかけをつくり、交流を深めやすくする。私たちと住民の方で協力して料理をし、共に食べることで特別なひとときを分かち合い、簡単なレシピを伝え今後住民の方同士で楽しめるようなきっかけ作りをする。

活動詳細

[午前] 各住戸に活動の宣伝、住民の方からの要望で落ち葉の清掃。
[午後] どん焼き・みたらし団子作り・茶話会。

成果と課題

活動では、『誰のためのボランティアか』を意識し取り組むことができました。桜の木の落ち葉清掃では、「ボランティアの人が来てくれると、私たちもやる気が起きる」というお言葉をいただき、現地に赴き交流することだけでもボランティアになるということがわかりました。また、住民の方からのお話の中で赤井仮設団地は小さい仮設でありボランティアに来てもらえないという情報を知り、これからのボランティアの課題として、広い視野でボランティアを必要としている場所を探すことが必要とわかりました。

感想

あいさつ・清掃活動・お菓子作り・茶話会を通して、住民の方々と交流することができました。地震が起きた後から現在までの生活の変化や、仮設団地での楽しみ、熊本の良いところなど、赤井仮設団地の方々からしか聞けないお話もしていただき学ぶ場面が多くありました。仮設団地の方だけでなく、仮設団地で暮らす方のお孫さんなども週末ということで遊びに来られており、共に遊ぶことができました。私たちが開催した茶話会をきっかけに住民の方同士の交流の場となれた事を嬉しく思います。

小池島田仮設団地

からあげくん チーム

日時：9月10日（日） 10時00分～16時00分

人数：兵庫の学生7人

趣旨：仮設住宅の軒先のペンキ塗り及び居住スペースの清掃を行うことにより、居住者の方々の住みやすさの向上を図る。また、住民の方とコミュニケーションを通して、学生と住民の方との交流を行う。

活動詳細

[午前] あらかじめ会長にアンケートを取ってもらい、必要な方の自宅を訪問して、換気扇掃除。各家の軒先のペンキ塗り。
[午後] アロマキャンドル作りと茶話会。テクノ仮設団地と同じ。茶話会はアロマキャンドルを冷ます間に、折り紙を折ったり、お菓子やジュースを食べながら行った。

成果と課題

成果：前日の反省（視野の狭さ）を改善できたことで、たくさんの方々の住民の方の笑顔を見ることができました。また、手作りのポスターを見た方や午前中換気扇掃除を行った方々など予想を超えてたくさんの方が来てくださりました。
課題：材料が余り過ぎたため、もう少し慎重に材料の量を考えればよかったこと。

感想

前日の課題を改善することができ、前日より笑顔の絶えない空間を作ることができました。この活動を通して感じたことは一人ひとり違いますが、どの学生も得られたものは大きく、これから生きていくうえで良い経験になったはずで。成長させてくれたこの活動に感謝し、得られたものをアウトプットしていくことに努めたいです。

飯野小仮設団地

くまもんず チーム

日時：9月10日（日） 10時00分～16時00分

人数：兵庫の学生8人

趣旨：ゲーム大会・焼きそば作り・表札作りを通して住民の方とコミュニケーションを図る。住民の方と協力してつくる。

活動詳細

[午前] ゲーム大会。
[午後] 焼きそば作り。
表札作り。板は50本用意しシールや貝殻などを飾り付けたりマーカーでデザインして表札を作成。

成果と課題

ゲーム大会では子どもたちがたくさん来てくれたので賑やかに活動ができました。焼きそば作りでは学生だけでなく住民の方にたくさん手助けしていただいたのでとても美味しい焼きそばを作ることができました。
表札作りでは板をたくさん用意していたのでもっと声かけをしに行ってもっとたくさんの人に来てもらえるように努力するべきだったと思います。

感想

初めのゲーム大会では、子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。焼きそば作りでは住民の方に助けていただいて私たち学生だけではできないものになりました。表札作りでは、いろんなデザインの表札を作っていたら『帰ったら飾るね!』と、とても喜んでくださりました。震災当時の話や趣味などいろんな話がありました。たくさん一緒に笑っていい思い出となりました。子どもや高齢者の方が表札を作ってプレゼントしてくださったことが嬉しかったです。たくさん『ありがとう』という声をいただいて来てよかったと思いました。『またきてね。また会おうね。』『必ず来ます』と約束をしたのでまた必ず行きたいです。

スタッフ・お世話になった 方々からのコメント

ひょうごボランティアプラザ 主事

山下 美春

自分たちでプログラムを企画する苦労と無事に活動を終えた時の達成感を味わうことができたと思います。そして、何より実際に現地に赴き、被災地の今を目で見て、住民の方々の声を聴くことができたということは、とても貴重な体験になったことでしょう。

学生ボランティア事業を通じて、生まれた繋がりとお出合いを大切にしながら今後も地域でのボランティアや被災地支援活動を続けてほしいと思います。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部 広報交流課 課長

唐津 史朗

「つたえる・つなげる・つづける」という3つのコンセプトを、皆さんが自らの責任として背負い活動する姿勢を様々な場面で目にし、頼もしく思いつつともに活動させていただきました。

多くの学びの中で「平時のつながりが災害時に生きる」ことを学ばれたと思います。災害多発社会と言われる昨今、この活動や学生生活で得た様々な「つながり」を大事にしてほしいと願っています。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部 広報交流課 主事

藤崎 圭多朗

すでにお気づきかもしれませんが、今年のプログラムは例年以上に“主体性”に焦点をあてた構成となっています。そしてまさしく、ひとりひとりが考え、仲間と意見を交わし、その結果として被災地がたくさんの笑顔で満たされました。その成果は、他ならぬみなさん自身の主体的な努力により得られたものです。

今回の活動から感じたやりがいや手応え、自信はみなさんのこれからの人生をどう彩るのでしょうか。

願わくば、それらがボランティアとしての次なる一歩を後押ししてくれるものとなりますように。

神戸女子大学 文学部 教授

大西 雅裕

今夏、二か所への学生の活動展開は、二点で評価できると考えます。一つは震災による生活状況の学びで、経過の異なる地域事情を現地での住民の方々とのふれあいを通してより深く理解できたと思います。二つ目は個々の学生自身の学びで、住民の方々への寄り添いやグループメンバー同志が活動を通して強い信頼関係の構築ができ、学生個人の“人間力”の向上につながったと考えます。今後、各人の大きな糧となったものと確信します。

甲南大学 地域連携センター 参与 法学部 教授

久保 はるか

学生の皆さんには、この被災地ボランティアに参加した経験を今後の学びと行動に生かしてもらいたいと願っています。被災地の現状を自分の目でみて知ることができたこと、被災者の方々とお話しし一緒に快い時間を共有できたこと、仲間と協力してプログラムを企画し実施したこと、そして地元神戸でも学生の活力が期待されている場があると知ったこと、など。残りの学生生活と、それから社会人になってからも大切にしてください。今回、熊本でのボランティアに同行しまして、私自身多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

甲南大学 地域連携センター事務局 課長

松下 賢一

今年度のボランティア事業の特徴は、学生スタッフの発足、初めての宮城県名取市、熊本県益城町の2箇所での活動だと思います。活動は参加学生の主体性に重きを置いた展開となりました。参加した学生は宮城県、熊本県で活動している大学生とも交流しながら少しでも喜んでもらえるものは何かを思考、実践し、多くの皆さんに喜んでもらうことができました。この貴重な経験、出合いをこれからの人生に繋げてもらえれば嬉しく思います。

甲南大学 地域連携センター事務局

衛藤 友紀

初めて参加させていただきました。皆さんの真剣に取り組む姿を近くで見てきて、とても羨ましく思いました。今回初めて出合い、繋がりができた人がたくさんいますか？きっと何かの「ご縁」だと思います。大切にしましょうね。この経

験を振り返り、「何のために」活動し、これから「何のために」続けていくのかを考えていってほしいなと思います。ありがとうございました。

尚綱学院大学 連携交流課 課長

佐々木 真理

兵庫と宮城の学生がそれぞれの地で起こった災害について学び、考え、共有した時間。寄り添い支援の一步につながる大切な時間だったと思います。また、この交流は一人一人の成長だけでなく、多くのつながりを作るきっかけにもなったのではないのでしょうか。

振り返ると、皆さんの活動と共にたくさんの笑顔がありました。皆さんの思いが誰かの心に伝わって、今日の力になっていると思います！ありがとうございました！

尚綱学院大学 ボランティアステーション スタッフ

松田 久美子

今年の合同学習会は兵庫・宮城の学生さんが共に被災地の現状や阪神・淡路大震災の経験・教訓について学び、皆様の復興への思いを共有する貴重な時間もあり、私自身多くのことに気づかされました。

仮設住宅の活動では、住民さんが少なくなっていることから昨年とはまた違う状況ではありましたが、皆様の温かい思いは参加した住民さんに伝わっていると思います。

兵庫のパワーを強く感じた4日間でした。遠いところから本当にありがとうございました。

尚綱学院大学 2年

畠山 大地

今年の活動で感じたこと、それは「自由」の良さです。予め決めたプログラムは実行したいという気持ちもあります。ですが、時にはその場の空気感による変化もあります。その中で生まれた「自由」がまた違った和やかな雰囲気を造り出す、そんな気付きがありました。大学コンソーシアムひょうご神戸の皆さん今年もありがとうございました！神戸女子大学の太西先生から人生80年29200日というお話がありました。今年できたこの「つ」なかりを1日(今日)を大切に形にし「つ」づけていきましょう！

熊本学園大学ボランティアセンター

ボランティア・コーディネーター

照谷 明日香

2016年、熊本地震が発生し、熊本学園大学で災害専門のボランティアセンターが設立しました。現在でも熊本にいる学生らは、様々な思いを持ってボランティア活動をし、走り続けています。しかし、時には息切れしそうになることもあります。そんななか、大学コンソーシアムひょうご神戸さんとの交流プログラムがあり、そこで他県の大学生と伸び伸びと交流する熊本の学生の姿をみて、私自身も言葉にならない気持ちが湧き上がりました。熊本の学生が被災地で居住し、ボランティア活動をするということは、知らないうちに多くのものを抱えることがあるのではと感じました。

今回のように学生ボランティアが交流することにより、ボランティアする楽しさや喜びを再確認し、また明るく前向きな気持ちにもなれる素晴らしい機会だと思います。

また懸命に学ぼうとする学生の姿も眩しく、互いにいい刺激になったかと思います。

今後も長く細く活動するエネルギーをいただきました。ありがとうございました。

熊本県立大学 3年

野田 歩美

大学コンソーシアムひょうご神戸の皆さんが住民の方々を楽しませようと積極的に取り組む姿勢が良いと感じました。イベント開始時には団地内を歩く子供に声をかけたり、遊びに来た子供の要望に応えたりという姿が印象的でした。テクノ仮設団地にできた広場は子供たちが自主的に使えていないという様子でしたが、今回の企画で皆さんと遊んだことで、これから子供達が広場を使おうと思える良い契機になったのではないかと感じています。

平成 29 年度 東日本大震災・熊本地震災害復興支援学生ボランティア事業 参加者

熊本県益城町での活動チーム

チーム名	氏名	学校名	学年
からあげくん	高瀬 迅人	関西学院大学	1
	伊津 萌里	神戸女子大学	1
	竹川 紗生	関西学院大学	2
	北村 加奈萌	甲南大学	3
	田邊 聖香	兵庫県立大学	4
	*井上 和輝	神戸学院大学	3
	*寺坂 郁香	神戸松蔭女子学院大学	4
	寺井 里奈	関西学院大学	2
くまもんず	細谷 綾香	神戸松蔭女子学院大学	2
	大谷 菜緒	神戸常盤大学	2
	土森 彬史	甲南大学	3
	八重田 彩菜	神戸市外国語大学	3
	松田 華佳	関西学院大学	3
	*岡野 隼	兵庫大学	4
	*西野 友香	甲南大学	3
	稲田 莉子	関西学院大学	1
ひよごもん	中桐 大樹	関西学院大学	2
	大橋 日向子	神戸常盤大学	2
	久世 美里	神戸学院大学	3
	宇仁菅 雅子	甲南大学	3
	*森安 裕也	甲南大学	4
	*甲藤 梨彩	神戸市外国語大学	3
えだまめず	上田 勇真	兵庫大学	2
	久保 加代子	甲南大学	3
	小宮 あずみ	関西学院大学	3
	古賀 美友	関西学院大学	3
	北村 梨菜	神戸学院大学	3
	藤田 みのり	甲南女子大学	3
*小西 由記	神戸親和女子大学	3	

*は学生スタッフです

宮城県名取市での活動チーム

チーム名	氏名	学校名	学年
のびた	江野 七海	神戸女子大学	1
	足立 祥基	関西国際大学	2
	井上 琴野	神戸海星女子学院大学	2
	中野 亜耶	甲南大学	2
	*清水 凜風	神戸常盤大学	4
	*小畑 保奈美	神戸親和女子大学	3
なとりまる	小西 示穂	神戸市外国語大学	1
	矢田 祐子	神戸女子大学	1
	田淵 日和	神戸松蔭女子学院大学	1
	下村 衿加	神戸海星女子学院大学	2
	森本 優太	兵庫大学	2
	橋本 莉緒	神戸親和女子大学	4
*阿久澤 章大	流通科学大学	2	



スタッフ一覧

- ひょうごボランティアプラザ
 - 所長代理 鬼本 英太郎
 - 事務局長 柳瀬 長明
 - 事務局次長兼総務調整部長 松原 富美子
 - 総務調整部 主事 山下 美春
 - 神戸市社会福祉協議会
 - 地域支援部 部長 福井 徹
 - 地域支援部 広報交流課 課長 唐津 史朗
 - 地域支援部 広報交流課 主事 藤崎 圭多朗
 - 大学コンソーシアムひょうご神戸
 - 学生交流委員会
 - 神戸親和女子大学 地域交流センター長 教授 大島 剛
 - 神戸女子大学 文学部 教授 大西 雅裕
 - 神戸女子大学 地域連携推進センター 地域連携推進事務室 室長 道下 昌代
 - 兵庫県立大学 減災復興政策研究科 減災復興政策専攻 教授 青田 良介
 - 神戸大学 学生ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 東末 真紀
 - 甲南大学 地域連携センター 参与 法学部 教授 久保 はるか
- 学生ボランティア事業ユニットリーダー校（事務局）
- 甲南大学 地域連携センター事務室 課長 松下 賢一
 - 甲南大学 地域連携センター事務室 村田 暁
 - 甲南大学 地域連携センター事務室 衛藤 友紀

以上 16 人



NATORI・MASHIKI×KOBE

VOLUNTEER REPORT 2017

平成 29 年度

東日本大震災・熊本地震災害復興支援
学生ボランティア事業報告書

本活動は、兵庫県「平成29年度 復興サポート事業」「平成29年度 熊本地震復興サポート事業」
「ひょうご東日本大震災被災地「絆」ボランティア活動支援事業」の助成を受けて実施しております。

発行日：2017年12月 発行：ひょうごボランティアプラザ・神戸市社会福祉協議会・大学コンソーシアムひょうご神戸
印刷：イワサキ出版印刷有限公司